

今月の重点活動

■外国人技能実習 技能実習生への研修会

瑞穂市と本巣市の生産者3名で組織するファームネット岐阜協同組合では、平成15年頃から外国人技能実習生の受け入れを通じた海外との技術交流を行っている。

6月22日には、瑞穂市内の事務所において、今年5月から技能実習生として来日した11名に対して研修会が開催され、農林事務所から植物生理や花きの栽培管理に関する基礎について説明を行った。

今後、実習生は、日本語を学びながら栽培管理や出荷調製などの技能実習に取り組み、3年間の実習期間を経て帰国し、農業関係の仕事に就職する。
(園芸産地支援第一係・植松 晃弘)



【研修会の様子】

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■小学生等 田植え体験支援

岐阜管内の小学校など各地で田植え体験が行われ、農林事務所他、地域の生産者やJAぎふ、市役所が支援にあたった。

6月13日の羽島市立福寿小学校では5年生約90名が、6月20日の本巣市立真桑小学校では5年生約100名が、6月25日には、各務原市の親子約140名が参加し、当日は、農林事務所から地域の稲作の概要や苗の植え方について説明した後、実際に田んぼに入り、手植えの方法を指導した。

初めて水田に入った児童らは、最初は思うように動けず、土の感触に戸惑いながらも、準備された苗を最後まで植えることができた。終了後には、ほ場を眺めながら、「楽しかった」、「秋の収穫が楽しみ」などの声が聞かれた。

10月には収穫体験も計画されており、関係機関とともに支援する予定である。

(地域支援第二係・木村 裕子、谷川 千遥、地域支援第三係・松本 政行)



【田植え体験の様子】

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■水稻 岐系207号の田植実施

県農業技術センターで育成された水稻品種「岐系207号」は、倒伏や高温障害に強い特徴があり、生産者・米穀業者・県関係機関で組織する「オーダーメイド型米産地づくり研究会」の会員が令和2年から栽培を行っている。岐阜管内では、岐阜市、羽島市及び本巣市の8農業生産法人が、7.2haで作付している。

農林事務所では、育苗管理や施肥体系について指導すると共に調査ほを設置し、生育経過を調べてきた。この品種は県内米穀業者との契約により栽培しており、今年は育苗期にあたる5月に寒暖差が大きく苗作りに苦労したが、植付後は順調に生育しており豊作を期待している。

今後、農林事務所は栽培管理指導や各種調査を継続し、当該品種の安定生産とブランド化をすすめていくこととしている。
(地域支援第三係・松本 政行)



【岐系207号の田植え】

■小麦 小麦収穫作業終了

岐阜管内の小麦は、転作田を利用し、「タマイズミ」を420ha作付けしており、6月1日～20日に収穫作業が行われた。

生産された小麦は地元製粉業者を経て、ピザやパスタ、菓子類に加工され消費される。

今年は1～2月の低温により一時的に生育が遅れたが、3月以降の気温上昇に伴い回復し、出穂期及び収穫期は平年並となった。また、梅雨入りが遅かったため麦粒が乾燥し、順調に刈取作業を進めることができた。

今後、農林事務所では単収や品質データを収集し、令和4年産小麦の評価をするとともに、令和5年産作付に向けて栽培体系を検討する。
(地域支援第三係・松本 政行)



【小麦収穫作業】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■イチゴ 本巣莓技術部会勉強会の開催

6月14日、J A ぎふ糸貫農産物流通センターにおいて、本巣莓技術部会の勉強会が開催された。

農林事務所が事前に育苗技術に関するアンケートを実施し、中でも重要と思われる良い苗を生産するために必要な5項目について、各自の実際の栽培管理や考え方を議論した。

また、関心の高い「美濃娘」の芽かき作業について、農林事務所からスライドを用いて説明した。

今回は、新型コロナの影響により2年ぶりの開催となり、久しぶりに生産者と関係機関が一堂に集まり、栽培技術等に関する議論をしたことで、自分の意見を述べたり、他人の意見を聞くことの重要性が再認識された勉強会となった。

(園芸産地支援第二係・菊井 裕人)



【勉強会の様子】

■イチゴ GAP取組み研修会の開催

6月14日、J A ぎふ黒野農産物流通センターにおいて、ぎふ農協岐阜市いちご部会員を対象に、ぎふ清流GAP取組み研修会が行われた。同部会は令和3年度にぎふ清流GAPの評価を受けているが、取組み農場の追加を予定しており、改めて農林事務所から農場の生産工程管理について解説した。7月には実施する農場での公開内部点検、新規取組み農場での内部監査員研修等についても支援することとしている。

(園芸産地支援第二係・若原 浩司)



【研修会の様子】

地域資源を活かした農村づくり

■薬用作物 薬用作物産地化に向けた取り組み

6月23、24日、岐阜市東板谷の薬用作物試験ほ場において「薬用作物産地支援栽培技術研修会」が開催された。

この研修会は、薬用作物の産地形成や栽培技術を確立することを目的に、岐阜管内の薬用作物生産者13名を対象に、岐阜市薬用作物栽培協議会が実施している。

当日は、公益社団法人東京生薬協会と岐阜農林事務所の指導のもと、キキョウ、カワラヨモギ、ジオウ、ミシマサイコ、ハトムギなど、薬用作物の特徴、栽培上の注意点、種子・種苗の供給、品質評価などについて研修を行った。

参加者からは産地化の手順や、栽培上の課題解決について質問が多く寄せられ、活発な意見交換の場となった。

(地域支援第一係・藤田 文彦)



【研修会の風景】